

〔資料紹介〕

『新参蔡姓家譜』について

1) 崎原 恭子

Brief Notes on A Genealogical Record of Shinzan Sai Clan

Kyoko SAKIHARA¹⁾

今回紹介する『新参蔡姓家譜』(渡具知家)は、蔡璋津堅親雲上武雅の二世・津堅筑登之武久の第三子である三世・蔡求成渡具知筑登之武矩から始まる支流(小宗)の那覇士族の家譜である。現状で九六丁あり、大きさは縦二九cm、横十九cmである。家譜の総目録である『氏集 首里那覇』(注1)でいうと、第十九番の二四二三であり、『新参元祖諱津堅親雲上武雅二世津堅筑登之親雲上武久三子蔡求成渡具知筑登之武矩新参蔡氏 渡具知親雲上』と記されている。本家(大宗)は、同じく『氏集 首里那覇』(注2)でいう第十九番の二四二二に当たる(『新参蔡氏 名嘉眞筑登之親雲上』)『新参蔡姓家譜』(渡具知家)には、どのような理由で新参として認められたのかの経緯については掲載されていない。本家(名嘉眞家)の家譜に載っていたかもしれないが、現在その原本は確認されていないので理由は不明である。

世系図は二丁目から書き始められ、冒頭の上部には「首里之印」が押されている。家譜に掲載した記事を王府の系図座で確認し終えたあと、各家に戻されて格護された家譜の原本である。世系図には三世から九世まで記され、記録には武矩(一六九三—一七三二)から九世武棟(一八七七—?)までの記事が掲載されている。記事の年号では、三世武矩が生まれた一六九三年がもともとも古く、八世武信、九世武表、九世武澤が敬髻(カタカシラ)を結つた一八七八年がもともとも新しい年号である。掲載内容についていくつか紹介したい。まず系祖である新参三世武矩について記すと、一六九三年に生まれ、一七〇六年に親見世の若筆者

になり、翌年に敬髻(カタカシラ)を結い、一七一二年に親見世の筆者を約一年間、その後一七二〇年に首里政庁の給地蔵の筆者を約一年間勤め、一七三二年に四十歳で亡くなっている。那覇士族の出仕のパターンはいくつか知られているが(注3)、武矩は、選考により年季役の役所に勤めて星功を積む典型的なパターンを歩んだことがわかる。

家督の相続に関する特記事項として、新参四世武連の長男である新参五世武休が本家(名嘉眞家)の新参四世武盛の嗣子となり、のちに武休の長男である新参六世武賢が武連の跡目を継いでいることが挙げられる。武休については、家譜の最後にメモされた「名嘉眞系図写」(注4)から知ることができる。この世系図の写しによると、武盛の兄(長男・次男)が四歳と七歳で亡くなったため、武盛が本家の家督を継ぎ、武休が嗣子となったことがわかる。また、武休から始まる世系図も写されており、ここには武休の次男である武賢が分家の渡具知家の嗣子になったことが記されている。武賢の父である武休は渡具知家の出身であり、その息子が本家から分家に移っている相続関係である。家督の相続に関しては様々な場合があることが知られており(注5)、家譜でも本家と分家間での相続の一例を確認することができる。ちなみに、『氏集 首里那覇』の本家譜の左隣に記された第十九番の二四二四「大宗諱璋翁長親雲上武矩 蔡氏 翁長筑登之」は、新参蔡氏の本家の系祖である武雅と兄弟である可能性も指摘されている(注6)。

その他、家譜に直接記されているわけではないが、新参八世武恭は国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されている「宜野座の八月あしび」の指導者の一人であることが、宜野座村の調査でわかっている(注7)。

次に、家譜の現状について述べたい。本紙は木口や角を中心に折れや汚れも見られるが、基本的に良好な状態である。表紙は後舗であり「新参蔡姓世系 渡具知氏系図」と墨書さ

1) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1.

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, Omoromachi 3-1-1, Naha City, Okinawa Prefecture 900-0006, Japan

れている。いつの時点かはつきりしないが、世系図の枠外にはボールペン等による書込みも見られ、後世に手が加えられたことがわかる。また一丁目のウラには「表紙除九拾参枚」とも記されるが、いつ誰による書込みなのかはつきりとわからないそうである。その他、表紙と本紙の間には布地（平地の綾織、梅に流水紋、緑色系「碧玉色に近い」）が挟まれており、もとの表紙として使用されていた可能性もある。ただ、破れが進行していることに加え、畳まれた状態で本紙とともに綴じられているため全体像ははつきりしない。今後、修理等の機会に改めて確認する必要がある。

本家譜は、平成二十四年に新参蔡氏の子孫に当たる渡具知清氏より当館に寄贈された。渡具知氏によると、以前、渡具知家は現在的那覇市松山に住まいがあつたが戦前には那覇市牧志に移転したそうである。沖縄戦時中アメリカ軍が沖縄島に上陸する前に、一家で沖縄島北部へ逃れた。その際に、寄贈者の祖父が本家譜を懐に入れて大事に持ち続けたため、今日まで残されたそうである。ちなみに、本家譜は那覇市による家譜収集事業においても存在が確認されており、同館には複製コピーが所蔵されている。また、『沖縄大百科事典』の「死罪」の項目には本家譜の記事を参考にした事柄が一例として紹介されている（注8）。いずれにしても、これまで本家譜の内容を網羅して活字化されたことはなかった。そのため、当館に寄贈されたことを契機とし、内容を活字化して資料紹介することとした。

活字化作業に当たって、人名で使用されている以外の旧漢字は新漢字に改めた。王国時代に記された文字は明朝体、明らかに王国時代以降に追記されたと思われる文字はゴシック文字として差別化した。また、各記事に押された系図座の確認済みの印である「系紀之印」等、印の表記は省略した。また、判読できなかった文字については■で表した。文字の脱落と判断される場合は当該文字を「」で示して文中に挿入した。

（注1）『氏集 首里那覇』那覇市市民文化歴史博物館 二〇〇八年（増補改訂版）

（注2）前掲 注1

（注3）渡口眞清「那覇の土」『近世の琉球』一九七五年 法政大学出版局 ここには那覇の土の出仕パターンとして、（1）文筆試験を受けて里主所的那覇筆者、大筆者となり、旅役へ進むもの。（2）試験を受けずに年季役の役所につとめて星功を積む。たとえば親見世の若筆者、筆者となり、または首里政庁の高所など年季役所の仮筆者、筆者をすませて、最後に心付役諸座御蔵の筆者、大屋子）をめざすもの。（3）兵具当、仮屋守など勤めてから大和横目になる。（4）御物城役につく、の四項目が挙げられている。諸家譜の内容をみると（2）のコースが多い、と述べられている。

（注4）枠線のみ刷られた用紙に墨書されている。本家譜の系祖である武矩の名前の右には朱色の○印がある。また、武休が分家である渡具知家から来たこと、武賢が渡具知家へ移ったことを示す「渡具知」という文字は青色のボールペンで記入されている。本家である名嘉眞家の家譜が確認されていない今となつては、家族構成を知ることができる貴重な資料である。

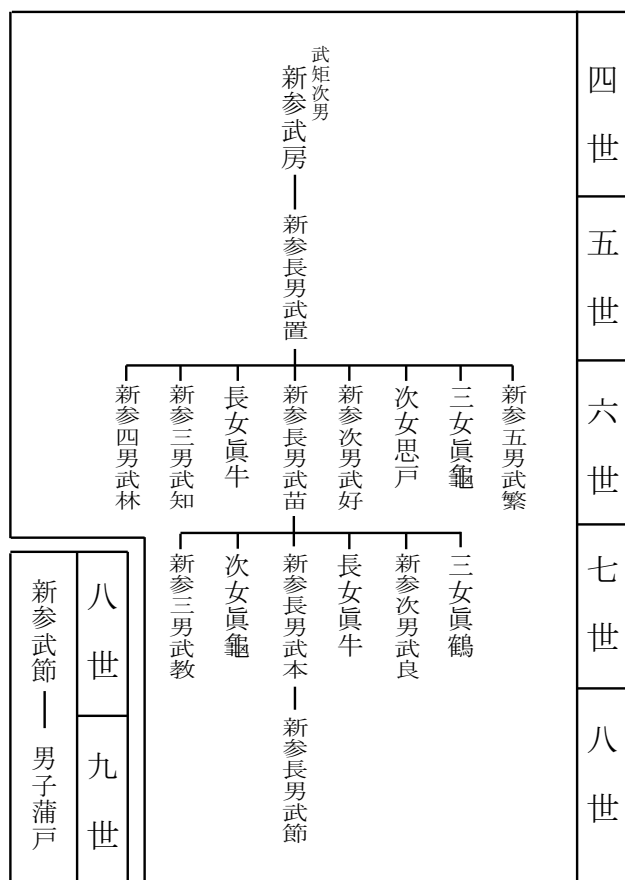
（注5）萩尾俊章「那覇・泊系土族家譜にみる家系の継承（I）」―女性元祖と他系養子―『沖縄県立博物館紀要』第十九号 沖縄県立博物館 一九九三年 など

（注6）仲村顕氏による指摘。

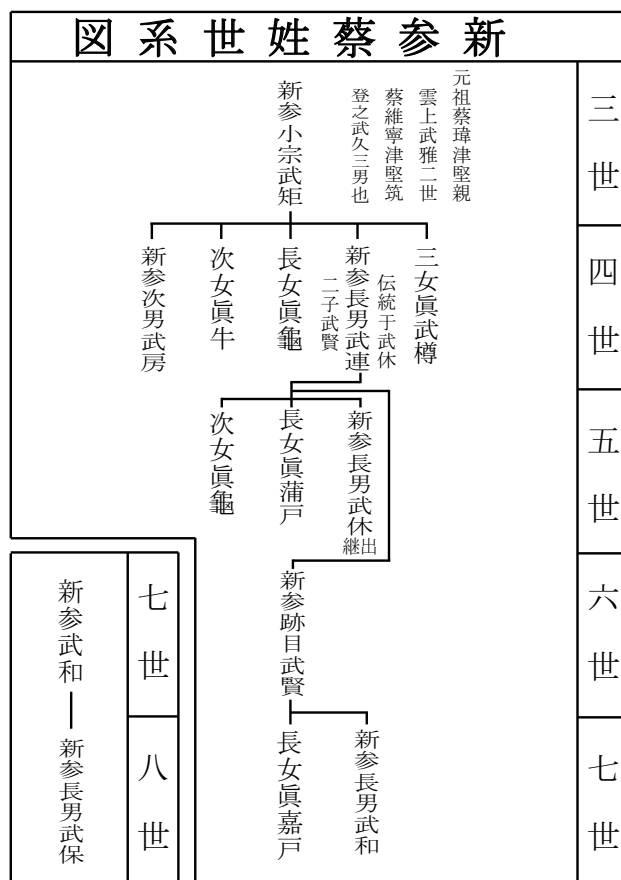
（注7）平成二十五年三月十一日に宜野座村教育委員会による本家譜の調査があつた。

（注8）田名真之「死罪」『沖縄大百科事典』一九八三年
「一七五七年（尚穆六）喧嘩によつて相手を殴り殺してしまひ斬罪となつた渡具知筑登之などがいた。」という記述が本家譜にある新参四世武房の記事と一致する。寄贈者である渡具知氏によると、家譜に武房が罪を犯したと記されているが実は冤罪であつたという口承が残っているそうである。

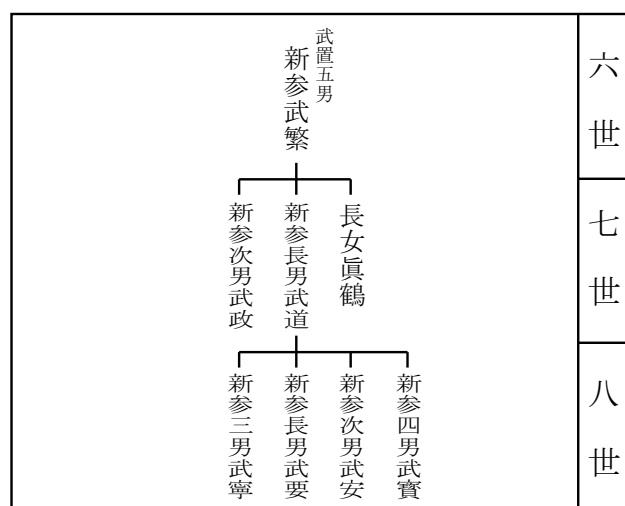
中元祖



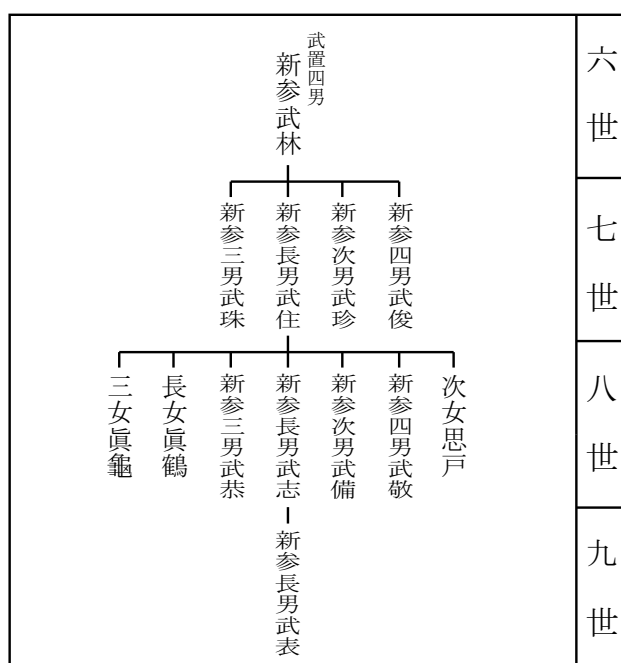
本元祖



久茂地五男



久茂地



久茂地四男
久良波渡具知

<p>新参武教</p> <p>新参次男武容</p> <p>長女眞嘉戸</p> <p>新参長男武寛</p> <p>新参次男武睦</p> <p>長女眞龜</p> <p>新参長男武雍</p>	七世
	八世
	九世

東江三男

<p>新参武慎</p> <p>新参長男武大</p>	八世
	九世

久茂地次男

<p>新参武容</p> <p>新参長男武正</p>	八世
	九世

東江方

<p>武苗次男</p> <p>新参武良</p> <p>新参三男武慎</p> <p>新参長男武長</p> <p>新参次男武聚</p> <p>新参五男武朗</p> <p>新参三男武芳</p> <p>新参長男武静</p> <p>新参次男武澤</p> <p>新参四男武資</p>	七世
	八世
	九世

世 富 慶

<p>新参武珍</p> <p>新参三男武愛</p> <p>新参長男武孝</p> <p>新参次男武忠</p> <p>新参四男武義</p>	七世
	八世

久茂地次男

若々町

<p>新参武政</p> <p>新参長男武信</p> <p>新参次男武篤</p>	七世
	八世

泊 渡具知

<p>新参武俊</p> <p>新参次男武延</p> <p>新参長男武潤</p> <p>長女眞鶴</p> <p>新参長男武棟</p>	七世
	八世
	九世

新參蔡姓家譜 小宗

紀錄

新參三世武矩 渡具知筑登之

童名眞蒲戸唐名蔡求成行三康熙三十二年癸酉正月二十五日生

父蔡璋津堅親雲上武雅二世蔡維寧津堅筑登之武久号了然

母無系渡久地筑登之親雲上女眞龜号淨觀

室扶氏照屋筑登之親雲上林次女思戸

長女眞龜 康熙五十五年丙申八月十一日生乾隆二十九年甲申二月朔日死享年四十九号梅雪

新參長男武連

次女眞牛 雍正三年乙巳八月十日生同四年丙午九月四日天享年二

三女眞武樽 雍正五年丁未十一月七日生乾隆二十五年庚辰十一月八日死享年三十四号妙秋

尚貞王世代

康熙四十五年丙戌八月十五日為親見世若筆者

同四十六年丁亥二月十二日結敬髻

尚敬王世代

康熙五十一年壬辰十二月十八日為親見世筆者翌年十二月迄勤焉

同五十九年庚子十二月三日為給地御藏筆者叙筑登之座敷翌年十二月迄勤焉

月迄勤焉

雍正十年壬子九月十八日不祿享年四十号常盛

新參四世武連

童名思德唐名蔡能定行一康熙六十一年壬寅九月十日生

父武矩

母扶氏思戸

室桓氏玉城筑登之嘉寛女武樽金

長女眞蒲戸 乾隆六年辛酉十一月四日生同十九年九月甲戌十二月朔日死享年十四号淨蓮

新參長男武休 因武盛無嗣為嗣子

次女眞龜 乾隆十三年戊辰九月十八日生同四十五年庚子十月三日死享年三十三号花英

新參跡目武賢

尚敬王世代

雍正十三年乙卯九月十六日結敬髻

乾隆十二年丁卯六月十五日叙筑登之座敷

同二十年乙亥十一月二十四日不祿享年三十四号寒梅

新參四世武房

童名思武志唐名蔡能安行二雍正九年辛亥三月三日生

父武矩

母扶氏思戸

室牛氏座間味筑登之親雲上秀由女眞牛

新參長男武置

尚敬王世代

乾隆十年乙丑八月十八日結敬髻

尚穆王世代

乾隆二十年乙亥十二月朔日叙筑登之座敷

同二十二年丁丑十一月二十七日於安謝港斬罪原是於那霸剛嚴寺前

打擲毛氏高良里之子親雲上盛救則死故蒙此罪享年二十六号乘勝

新參五世武置 本名乘英

童名眞蒲戸唐名蔡近和行一乾隆二十年乙亥十一月十四日生

父武房

母牛氏眞牛

室無系手登根筑登之女思戸

新參長男武苗

繼室荊氏金城筑登之親雲上秀布女眞龜

新參次男武好

長女眞牛 乾隆四十八年癸卯八月二十日生嫁于虞氏與儀筑登之親雲上實綱咸豐元年辛亥十二月十五日不祿寿六十九号眞顔

次女思戸 乾隆五十一年丙午八月三日生嫁于薛氏屋良筑登之利式咸豐二年壬子五月十日死

寿六十七号仁英

新參三男武知

三女眞龜 乾隆五十五年庚戌七月二十六日生嫁于蒙氏糸數筑登之親雲上昌立道光十二年壬辰七月十五日不祿享年四十三号自然

新參四男武林

新參五男武繁

尚穆王世代

乾隆三十四年己丑八月十四日結敬髻

同三十六年辛卯十二月二十五日為末吉宮童叙筑登之座敷

尚溫王世代

乾隆五十九年甲寅十二月朔日叙黃冠

嘉慶十七年壬申七月十四日不祿享年五十八

新參六世武苗

童名眞蒲戸唐名蔡大用行一乾隆三十九年甲午五月二十六日生

父武置

母無系思戸

室馮氏國吉筑登之清昌女眞吳勢

新參長男武本

長女眞牛 嘉慶五年庚申正月二十三日生

次女眞龜 嘉慶六年辛酉五月十一日生

新參次男武良

新參三男武教

三女眞鶴 嘉慶二十一年丙子十二月三十日生嫁于貝氏金城筑登之唯興

尚穆王世代

乾隆五十四年己酉正月二十九日結敬髻

尚灝王世代

嘉慶十八年癸酉十二月朔日叙筑登之座敷

道光元年辛巳四月五日叙黃冠

同十二年壬辰十一月十七日不祿享年五十九号仕本

新參六世武好

童名小樽金唐名蔡大佐行二乾隆四十七年壬寅正月八日生

父武置

母荊氏眞龜

尚溫王世代

嘉慶元年丙辰十月十三日結敬髻

尚灝王世代

嘉慶二十四年己卯十二月二十五日叙筑登之座敷

道光四年甲申三月十二日不祿享年四十三

新參六世武知

童名眞三良唐名蔡大達行三乾隆五十三年戊申十月二日生

父武置

母荊氏眞龜

尚溫王世代

嘉慶七年壬戌二月十二日結敬髻

尚灝王世代

道光元年辛巳十二月二十三日叙筑登之座敷

同七年丁亥十二月朔日叙黃冠

同十二年壬辰十二月七日不祿享年四十五号實心

新參六世武繁

童名眞山戸唐名蔡大元行五乾隆六十年乙卯九月二日生

父武置

母荊氏眞龜

室李氏眞榮田筑登之喜昇女眞牛

新參長男武道

長女眞鶴 道光二年壬午三月二十二日生

新參次男武政

尚灝王世代

嘉慶十五年庚午九月十八日結敬髻

道光四年甲申十二月朔日叙筑登之座敷
同十二年壬辰十一月二十九日不禄享年三十八号本覺

新参六世武林

童名樽金唐名蔡長孝行四乾隆五十七年壬子七月十六日生
父武置

母荊氏眞龜

室祖氏祖慶筑登之親雲上良休女眞鶴

新参長男武住

新参次男武珍

新参三男武珠

新参四男武俊

尚瀨王世代

嘉慶十一年丙寅八月五日結敬髻

道光二年壬午十二月朔日叙筑登之座敷

尚育王世代

道光十八年戊戌十二月朔日叙黃冠

咸豐八年戊午六月十二日不禄寿六十七号善覺

新参六世武賢

童名樽金唐名蔡和孝乾隆四十五年庚子三月二十四日生原係蔡大昌
名嘉眞筑登之武休二子母岑氏屋嘉筑登之休教女武樽金因本生之祖

父武連無嗣子咸豐七年丁巳五月奏 訟為嗣子

室梅氏長濱筑登之親雲上孫義女眞蒲戸

長女眞嘉戸 嘉慶七年壬戌五月十一日生

繼室若狭町村無系宮城筑登之女思戸

新参長男武和

尚穆王世代

乾隆五十九年甲寅十月三日結敬髻

尚成王世代

嘉慶八年癸亥十二月朔日叙筑登之座敷

尚瀨王世代

道光六年丙戌十二月朔日叙黃冠

新参七世武本

童名眞蒲戸唐名蔡立務行一乾隆六十年乙卯二月二日生
父武苗

母馮氏眞吳勢

室婁氏小那霸筑登之親雲上義長女眞蒲戸

新参長男武節

尚瀨王世代

嘉慶十五年庚午九月十八日結敬髻

道光四年甲申十二月朔日叙筑登之座敷

尚育王世代

道光二十五年乙巳十二月朔日叙黃冠

新参七世武教

童名思加那唐名蔡立功行三嘉慶二十一年丙子十二月三十日生

父武苗

母馮氏眞吳勢

室蒙氏糸数筑登之親雲上昌立女眞龜

長女眞嘉戸 道光二十三年癸卯八月二十五日生嫁于祖氏祖慶子良起

新参長男武寬

新参次男武容

尚瀨王世代

道光十年庚寅九月十三日結敬髻

尚育王世代

道光二十五年乙巳十二月朔日叙筑登之座敷

尚泰王世代

同治二年癸亥十二月朔日叙黃冠

新參七世武良

童名樽金唐名蔡立長行二嘉慶十五年庚午九月十七日生

父武林

母馮氏眞與勢

室無系宮城筑登之親雲上女思戸

新參長男武長

新參次男武聚

新參三男武慎

尚灝王世代

道光四年甲申十二月十三日結敬髻

同二十三年癸卯九月十日不祿享年三十四

新參七世武住

童名思加那唐名蔡世謨行一嘉慶二十三年戊寅二月二十二日生

父武林

母祖氏眞鶴

室黎氏阿波連筑登之親雲上宗喜女思戸

新參長男武志

新參次男武備

新參三男武恭

新參四男武敬

長女眞鶴 道光二十七年丁未十一月十日生

次女思戸 咸豐五年乙卯五月十五日生

三女眞龜 咸豐七年丁巳六月十五日生

尚灝王世代

道光十三年癸巳九月十日結敬髻

尚育王世代

道光二十七年丁未十二月朔日叙筑登之座敷

尚泰王世代

咸豐十年庚申十二月朔日叙黃冠

新參七世武珍

童名松金唐名蔡世榮行二嘉慶二十四年己卯十二月二十九日生

父武林

母祖氏眞鶴

室桃氏比屋根筑登之親雲上元猷女眞牛

新參長男武孝

新參次男武忠

新參三男武愛

新參四男武義

尚灝王世代

道光十三年癸巳九月十日結敬髻

尚泰王世代

咸豐三年癸丑十二月朔日叙筑登之座敷

同治三年甲子十二月六日叙黃冠

新參七世武珠

童名樽金唐名蔡世光道三道光二年壬午十二月二十九日生

父武林

母祖氏眞鶴

尚育王世代

道光十七年丁酉九月十九日結敬髻

尚泰王世代

咸豐三年癸丑十二月朔日叙筑登之座敷

同治四年乙丑十二月朔日叙黃冠

新參七世武俊

童名思仁王唐名蔡世昌行四道光四年甲申十二月二十二日生

父武林

母祖氏眞鶴

室蔡氏神山里之子親雲上光裕女眞蒲戸

新參長男武潤

長女眞鶴咸豐八年戊午正月十一日生

新參次男武延

尚育王世代

道光十九年己亥八月十日結敬髻

尚泰王世代

同治三年甲子十二月六日叙筑登之座敷

新參七世武和

童名思龜唐名蔡行助行一嘉慶二十年乙亥十一月八日生

父武賢

母無系思戸

室無系新城筑登之親雲上女眞加戸

新參長男武保

尚瀨王世代

道光九年己丑八月十日結敬髻

尚育王世代

道光十八年戊戌十二月朔日叙筑登之座敷

新參七世武道

童名思龜唐名蔡永輝行一嘉慶二十四年己卯十一月七日生

父武繁

母李氏眞牛

室葉氏仲本筑登之親雲上兼森女眞嘉戸

新參長男武要

新參次男武安

新參三男武寧

新參四男武實

尚瀨王世代

道光十三年癸巳九月九日結敬髻

尚泰王世代

道光二十八年戊申十二月朔日叙筑登之座敷

同治三年甲子十二月六日叙黃冠

新參七世武政

童名樽金唐名蔡永照行二道光四年甲申閏七月二十一日生

父武繁

母李氏眞牛

室杏氏喜瀨筑登之親雲上慎備女眞加戸

新參長男武信

新參次男武篤

尚育王世代

道光十八年戊戌二月五日結敬髻

尚泰王世代

咸豐十年庚申十二月朔日叙筑登之座敷

新參八世武長

童名眞牛唐名蔡有恒行一道光二十一年辛丑十二月十七日生

父武良

母無系思戸

室惠氏福治筑登之親雲上友在女眞鍋

新參長男武靜

繼室名護間切東江村百姓大兼久仁屋女眞牛

新參次男武澤

新參三男武芳

新參四男武資

新參五男武朗

尚泰王世代

咸豐五年乙卯八月二十日結敬髻

同治十年辛未十二月朔日叙筑登之座敷

新參八世武節

童名思加那唐名蔡永泰行一道光二十一年辛丑十二月十七日生

父武本

母妻氏眞蒲戸

男子蒲戸 母八重山嶋真榮里村三番与頭加武多屋男安加多与合後生盛屋加那伯母多眞仁同
治七年戊辰正月二十二日生住居彼嶋

尚泰王世代

咸豐五年乙卯八月十九日結敬髻

同治十年辛未十二月朔日叙筑登之座敷

新参八世武保

童名思龜唐名蔡得才行一道光十年庚寅十二月十六日生

父武和

母無系眞加戸

〔貼紙アリ〕〔靈位ヨリ道光二十年死亡ナルコト知ル〕

新参八世武聚

童名眞三良唐名蔡有仁行二道光二十二年壬寅十二月十二日生

父武良

母無系思戸

尚泰王世代

咸豐六年丙辰八月五日結敬髻

同治十年辛未十二月朔日叙筑登之座敷

新参八世武慎

童名眞蒲戸唐名蔡有義行三道光二十二年壬寅十二月十二日生

父武良

母無系思戸

室鳥小堀村無系比嘉筑登之親雲上女松金

新参長男武大

尚泰王世代

咸豐六年丙辰八月五日結敬髻

同治十年辛未十二月朔日叙筑登之座敷

新参八世武要

童名眞山戸唐名蔡常裕行一道光二十四年甲辰十二月七日生

父武道

母葉氏眞嘉戸

尚泰王世代

咸豐八年戊午五月十日結敬髻

光緒元年乙亥十二月朔日叙筑登之座敷

新参八世武志

童名樽金唐名蔡依仁行一道光二十四年甲辰十二月五日生

父武住

母黎氏思戸

室祖氏祖慶筑登之親雲上良以女眞伊奴

新参長男武表

尚泰王世代

咸豐九年己未三月六日結敬髻

同治六年丁卯正月二十八日因 冊封大典全竣之大慶叙筑登之座敷

原是勤閑番加勢筆者故也

新参八世武備

童名眞三良唐名蔡依義行二道光二十九年己酉十二月十七日生

父武住

母黎氏思戸

尚泰王世代

同治二年癸亥十二月五日結敬髻

新参八世武恭

童名眞牛唐名蔡依禮行三咸豐三年癸丑八月十四日生

父武住

母黎氏思戸

尚泰王世代

同治六年丁卯八月十日結敬髻

新參八世武敬

童名眞蒲戸唐名蔡依智行四咸豐十一年辛酉十二月十九日生

父武住

母黎氏思戸

尚泰王世代

光緒二年丙子正月二十三日結敬髻

新參八世武孝

童名思加那唐名蔡上寶行一咸豐十年庚申九月七日生

父武珍

母桃氏眞牛

尚泰王世代

同治十三年甲戌九月九日結敬髻

新參九世武靜

童名思武太唐名蔡必榮行一咸豐八年戊午十二月十七日生

父武長

母惠氏眞鍋

尚泰王世代

同治十二年癸酉八月十日結敬髻

新參八世武安

童名樽金唐名蔡常保行二道光二十七年丁未十一月二十三日生

父武道

母葉氏眞嘉戸

尚泰王世代

咸豐十一年辛酉二月二十五日結敬髻

新參八世武寬

童名眞蒲戸唐名蔡久豐行一道光二十六年丙午正月十七日生

父武教

母蒙氏眞龜

室祖氏祖慶筑登之親雲上良字女眞蒲戸

長女眞龜同治三年甲子四月二十八日生

新參長男武雍童名思加那唐名蔡獻瑞光緒元年乙亥正月二十八日生同年五月十五日夭享年一

新參次男武睦

尚泰王世代

咸豐十年庚申二月八日結敬髻

光緒元年乙亥十二月朔日叙筑登之座敷

新參八世武容

童名松金唐名蔡久祚行二咸豐元年辛亥五月十六日生

父武教

母蒙氏眞龜

室幸氏嶺井筑登之親雲上政慎女眞蒲戸

新參長男武正

尚泰王世代

同治五年丙寅十一月九日結敬髻

新參八世武寧

童名眞三良唐名蔡常昌行三同治二年癸亥十一月五日生

父武道

母葉氏眞嘉戸

新參八世武忠

童名眞牛唐名蔡上貨行二同治二年癸亥十一月三日生

父武珍

母桃氏眞牛

新参九世武大

童名松金唐名蔡守法行一同治二年癸亥十一月八日生

父武慎

母無系松金

尚泰王世代

光緒三年丁丑八月十八日結敬髻

新参九世武澤

童名眞鍋唐名蔡必朗行二同治三年甲子四月二十六日生

父武長

母無系眞牛

尚泰王世代

光緒四年戊寅二月十三日結敬髻

新参八世武信

童名思仁王唐名蔡順祥行一同治三年甲子十月八日生

父武政

母杏氏眞加戸

尚泰王世代

光緒四年戊寅正月十日結敬髻

新参九世武表

童名思加那唐名蔡茂達行一同治三年甲子九月二十四日生

父武志

母祖氏眞伊奴

尚泰王世代

光緒四年戊寅正月二日結敬髻

新参八世武寶

童名松金唐名蔡常秀行四同治四年乙丑十月二十六日生

父武道

母葉氏眞加戸

新参九世武芳

童名眞龜唐名蔡必祐行三同治五年丙寅正月二十九日生

父武長

母百姓眞牛

新参八世武愛

童名樽金唐名蔡必惠行三同治五年丙寅十二月十二日生

父武珍

母桃氏眞牛

新参八世武潤

童名樽金唐名蔡必克行一咸豐四年甲寅八月二十日生

父武俊

母蔡氏眞蒲戸

室毛氏仲榮眞里之子盛元女眞滿

新参長男武棟

尚泰王世代

同治七年戊辰二月八日結敬髻

新参八世武延

童名眞蒲戸唐名蔡必英行二同治二年癸亥五月十四日生

父武俊

母蔡氏眞蒲戸

尚泰王世代

光緒三年丁丑八月二十日結敬髻

新参八世武義

童名眞龜唐名蔡必守行四同治八年己巳十二月二十八日生

父武珍

母桃氏眞牛

新参八世武篤

童名松金唐名蔡必要行二同治八年己巳十二月二十九日生

父武政

母杏氏眞加戸

新参八世武資

童名松金蔡必満行四同治六年丁卯十二月二十九日生

父武長

母無系眞牛

新参八世武朗

童名樽金唐名蔡必恵行五同治十年辛未十二月三十日生

父武長

母無系眞牛

新参九世武正

童名思加那唐名蔡國實行一同治十二年癸酉十二月二十九日生

父武容

母幸氏眞蒲戸

新参九世武睦

童名松金唐名蔡獻祥行二同治十四年乙亥正月二十八日生

父武寛

母祖氏眞蒲戸

新参九世武棟

童名眞蒲戸唐名蔡承恩行一光緒三年丁丑二月二十一日〔生〕

父武潤

母毛氏眞満

名嘉眞系図

新参蔡姓世系図

